

## ICTを活用した教育体制構築に関する実証事業 報告書

<b>1. 学校名</b>	
ソウル日本人学校	
<b>2. テーマ</b>	
「世界中の友だちと仲良し。さあ教室を飛び出そう。」	
<b>3. 取組の概要</b>	
(※報告書の内容を要約し、200～400字程度で記載してください。)	
<p>ソウル日本人学校の交流活動の一つに現地校との交流会や国内、海外の日本人学校との交流がある。</p> <p>今年度は各学年単位で行うソウル市内の小中学校との直接交流ができないため、小学部は日本国内(岐阜県の小学校)やシドニー日本人学校、シンガポール日本人学校クレメンティ校とのテレビ会議システムを利用した交流活動を展開する。また中学部は、小学部同様日本国内(熊本県、茨城県)の学校やプサン日本人学校、ソウル市内の善一中学校、ドワイトインターナショナルスクールとテレビ会議システムを利用した交流活動を展開する。</p>	
<b>4. 取組の背景・目的</b>	
(※非常時でも途切れない「学びの保障」の在り方と関連づけて記述してください。)	
<p>ソウル市はコロナ感染拡大に伴い、状況に応じて防疫対策を行っている。本校は、令和2年2月26日より一斉休校になった。そのため授業は中断され、卒業式もやむを得ず中止とした。子どもたちが登校できないまま4月を迎え、子どもたちの学力保障のために、オンラインに切り替えることにした。教職員全員がすべて初めての経験であったため、試行錯誤しながら進めている。</p> <p>また、本校の一つの取り組みでもあった現地の学校との交流や現地理解学習もオンラインで何とかできないかと考え、オンラインだからこその良さに着目して取り組んだ。</p>	
<b>5. 取組の実施日程</b>	
日程	取組内容
9月	
23日(水)	<p>中学部 3年生:パソコン室(教師用1台:生徒用13台で接続)</p> <p>釜山日本人学校との交流 第1回目「お互いの自己紹介」(ZOOM)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・初めての顔合わせということもあり、一人ひとり自己紹介を行った。</li> <li>・お互いの地域のことで知りたいことを質問し合った。</li> </ul> <p>→質問されたことを互いに調べ、次回の交流時に発表し合う。</p>
24日(木)	<p>小学部 4年生:教室(教室パソコン1台で接続)</p> <p>岐阜市立則武小学校 6年生担当者との交流に向けての打ち合わせ(ZOOM)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・交流方法や交流内容について具体的に話し合った。</li> <li>・今後交流2回計画</li> </ul> <p>・交流時期 10月下旬 11月下旬</p>
25日(金)	<p>小学部 4年生:教室(教室パソコン1台で接続)</p> <p>シドニー日本人学校 4年生担当者との交流に向けての打ち合わせ(ZOOM)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・交流方法や交流内容について具体的に話し合った。</li> <li>・今後交流2回計画</li> </ul> <p>・交流時期 11月1週目 12月1週目</p>

26日(土)	<p>小学部 4年生:教室(教室パソコン1台で接続)</p> <p>シンガポール日本人学校 クレメンティ校 4年生担当者との交流に向けての打ち合わせ(ZOOM)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・交流方法や交流内容について具体的に話し合った。</li> <li>・今後交流2回計画</li> <li>・交流時期 10月最終週 11月から12月上旬</li> </ul>
10月	
7日(水)	<p>中学部 1年生:教室(教室パソコン1台)</p> <p>熊本県宇土市立網田中学校</p> <p>10月23日(金)の交流への打ち合わせ</p>
22日(木)	<p>小学部 4年生:教室(教室パソコン1台)</p> <p>岐阜市立則武小学校</p> <p>10月29日(木)の交流会打ち合わせ</p>
23日(金)	<p>中学部 1年生:パソコン室(教員用パソコン1台・タブレット1台使用 モバイルルーター使用)</p> <p>熊本県宇土市立網田中学校との交流会(第1回目) 13:10~ ZOOMを使つての交流会</p> <p>自己紹介を中心に、お互いに知りたいことを質問し合った。</p>
27日(火)	<p>中学部 3年生:パソコン室(教員用パソコン1台・タブレット1台使用 モバイルルーター使用)</p> <p>プサン日本人学校との交流会(第2回目) 13:00~14:00 ZOOMを使つての交流会</p> <p>第1回目の質問に対して答えることを中心に、それぞれの地域の良さを発信。</p>
29日(木)	<p>小学部 4年生:教室(教員用パソコン1台・タブレット1台使用 モバイルルーター使用)</p> <p>岐阜市立則武小学校(6年生)との交流会(第1回目)</p> <p>14:20~ ZOOMを使つての交流会</p> <p>岐阜市の良さ、ソウルの良さをお互いに発表。お互いに知りたいことをさらに質問し合った。</p> <p>中学部 2年生:教室(教員用パソコン1台・タブレット1台使用 モバイルルーター使用)</p> <p>茨城市立上田中学校との交流会(第1回目)</p> <p>11:50~12:40 ZOOMを使つての交流会</p> <p>自己紹介を中心に、お互いに知りたいことを質問し合った。</p>
30日(金)	<p>小学部 4年生:松・竹各教室</p> <p>(それぞれ 教員用パソコン1台・タブレット1台使用 モバイルルーター使用)</p> <p>シンガポール日本人学校(4年生)との交流会(第1回目)</p> <p>11:30~ ZOOMを使つての交流会</p> <p>シンガポールの良さ、ソウルの良さをお互いに発表。お互いに知りたいことをさらに質問し合った。</p> <p>小学部 4年生:教室(教室パソコン1台)</p> <p>岐阜市立則武小学校</p> <p>交流会の反省</p> <p>次回の交流会の内容相談 など</p>

11月	
2日(月)	<p>小学部4年生</p> <p>場所:教室(教室用パソコン1台、ルーター使用)</p> <p>シドニー日本人学校との第1回交流会</p> <p>シドニー日本人学校:シドニーの良いところ紹介</p> <p>ソウル日本人学校:ソウルの良いところ紹介</p> <p>※ZOOM にて行った。各クラスの大型テレビにシドニーの様子を映して行った。</p>
10日(火)	<p>全学年</p> <p>場所:各教室(各教室用パソコン1台、ルーター使用)</p> <p>日韓交流祭りの中継鑑賞</p> <p>※各クラスの大型テレビに Youtube 中継の様子を映して行った。</p>
19日(木)	<p>小学部 4 年生</p> <p>場所:職員室(職員室パソコン1台、有線 LAN 使用)</p> <p>シドニー日本人学校との打ち合わせ</p> <p>ZOOM にて、接続確認などを行った。</p> <p>ZOOM にて ICT アドバイザーとの情報交換会</p> <p>パソコン室:パソコン 5 台</p>
24日(火)	<p>教職員</p> <p>場所:パソコン室</p> <p>(教師用パソコン1台、カメラ&amp;マイク新設設置した児童生徒用パソコン30台、無線 LAN 使用)</p> <p>ICT 研修会</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ジャストスマイルの活用方法</li> <li>・プログラミング学習について</li> <li>・全校で ZOOM テスト</li> </ul> <p>※オンラインフリー参観に向けて校内で100台接続しインターネットの状況調査</p>
25日(水)	<p>中学部全学年</p> <p>場所:各教室(教室用パソコン1台、校内 WIFI 使用)</p> <p>韓国の現地校</p> <p>善一中学校とのオンライン交流会 13:20~14:00</p> <p>それぞれの学校紹介</p> <p>※ZOOM にて行った。各クラスの大型テレビに相手校の様子を映して行った。</p>
30日(月)	<p>中学部 1 年生:パソコン室(教員用パソコン 1 台・カメラ&amp;マイク新設設置した児童生徒用パソコン10台、タブレット1台使用 )</p> <p>熊本県宇土市立網田中学校との交流会(第2回)13:10~ZOOM を使って地域紹介</p>
25日(水) ~ 30日(月)	<p>中学部3年生 場所:教室</p> <p>保護者を交えてのオンライン進路説明会・懇談会を実施</p> <p>※ZOOM にて行った。待機室を設定し面談 。生徒・保護者・担任のみ接続して行った。</p>
11月中	<p><b>校内 LAN の整備 校内無線 LAN の整備 タブレット導入を行った。</b></p>

12月	
1日(火) ～ 4日(金)	<p>○オンライン授業参観(コロナウイルス拡散防止のため、保護者の来校が禁止されているため) 幼稚部・小学部・中学部:2時間目・3時間目</p> <p><b>(校内 LAN、校内 WIFI の活用、各クラスタブレット2台+パソコン1台を使って各家庭に配信)</b> ZOOM を使って授業風景を保護者に公開。 各クラス、PC やタブレットを2～3台設置し授業の様子を配信した。体育館や音楽室などの特別教室は Wi-Fi 電波が弱いため、モバイル Wi-Fi を準備して行った。</p> <p>○オンライン個別懇談 幼稚部・小学部・中学部 ZOOM を使って個別懇談を行った。 セキュリティを高めるために、各クラスごとにパスワードを設定。また待機室を設定し、面談している保護者以外はアクセスできないようにした。</p>
1日(火)	<p>小学部4年生 場所:学年のオープンスペース<b>(校内 LAN、校内 WIFI の活用、一人一台タブレット使用、タブレット充電・移動の際、保管庫を活用)</b> シドニー日本人学校との交流 「それぞれの学校の良いところ紹介」 ZOOM を使い行った。 ソウル日本人学校の子どもたちは、一人一台タブレットを使い交流会に参加した。</p>
2日(水) 3日(木) 4日(金)	<p>小学部5・6年生 中学部 場所:各教室 <b>(校内 LAN、校内 WIFI の活用、各クラスタブレット2台+パソコン1台を活用)</b> 日本の NGO 団体の出前授業 「フードロスについて考えよう」 日本の NGO 団体に ZOOM を使って授業を行ってもらった。 講義を受けた後、ZOOM を介して小学部・中学部の子どもたちで意見交換を行った。</p>
2日(水)	<p>小学部4年生 場所:学年のオープンスペース<b>(校内 LAN、校内 WIFI の活用、一人一台タブレット使用)</b> 則武小学校(岐阜県)との交流 「それぞれの学校の良いところ紹介」 ZOOM を使い行った。 ソウル日本人学校の子どもたちは、一人一台タブレットを使い交流会に参加した。</p>
4日(金)	<p>幼稚部・小学部・中学部(コロナウイルス拡散防止のため、集会活動が禁止されているため) 場所:各教室 <b>(校内 LAN、校内 WIFI の活用、各クラスタブレット2台+パソコン1台を活用)</b> 芸術鑑賞教室を ZOOM 中継で行った。 体育館にて行っている韓国の伝統芸能を各クラスに ZOOM にて配信。</p>
8日(火)	<p>小学部4年生 場所:学年のオープンスペース<b>(校内 LAN、校内 WIFI の活用、一人一台タブレット使用)</b> シンガポール日本人学校との交流 「それぞれの学校の良いところ紹介」</p>

	ZOOM を使い行った。 ソウル日本人学校の子どもたちは、一人一台タブレットを使い交流会に参加した。
10日 (木)	オンライン校内授業研究会(10人以上の人数が集まるのが禁止されているため) 小学部3年生の授業を ZOOM にて中継。 その後研究会 ・各グループに分かれ(4人から6人)事後研究会 ・ZOOM を使って、各グループ発表
15日 (火)	ソウル市教育庁より全面オンラインへの指示。 幼稚部・小学部・中学部すべてがオンライン授業へ切り替え。
16日 (水)	中学部2年生 場所:各自宅 上田第二中学校との交流 「それぞれの国の良いところ紹介」 ZOOM を使い行った。 ソウル日本人学校の子どもたちは、各自宅よりそれぞれが参加し行った。

1月

1月7日  
(木)  
～

○韓国全土およびソウル市防疫対策の一環としてすべての学校においてオンライン授業への転換の指示が出ているため、本校においても幼稚部・小学部・中学部すべての学部でオンライン授業を展開している。

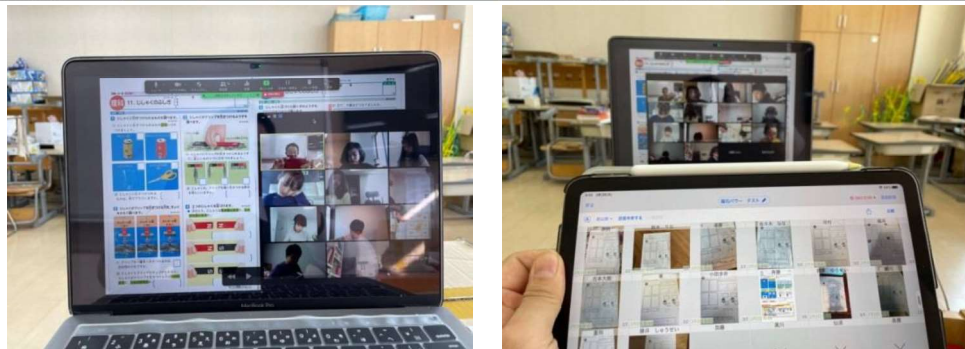
授業の方法:ZOOM を活用し、各学年・クラスごとに配信。

提出物や配布物は、ロイロノートを使いデータにて配布と回収を行っている。

学年末ということもありテストもオンラインにて行う試みも行っている。

基本の時間割

	年少	年中	年長	小1	小2	小3	小4	小5	小6	中1	中2	中3
1時間目:8:20~ 担当教師				授業 担当	授業 担当			授業 担当	授業 担当	課題学習 各自	授業 担当	授業 担当
2時間目:9:20~ 担当教師			学級 担当	課題学習 各自	課題学習 各自	授業 担当	授業 担当	課題学習 各自	課題学習 各自	授業 担当	課題学習 各自	課題学習 各自
3時間目:10:25~ 担当教師	学級 担当			授業 担当	授業 担当	課題学習 各自	課題学習 各自	授業 担当	授業 担当	課題学習 各自	課題学習 各自	課題学習 各自
4時間目:11:25~ 担当教師		学級 担当			課題学習 各自	授業 担当	授業 担当		課題学習 各自	授業 担当	課題学習 各自	課題学習 各自
5時間目:13:00~ 担当教師	英会話 ※水・木	英会話 ※水・木	英会話 ※水・木	授業 担当	授業 担当	課題学習 各自	課題学習 各自	授業 担当	授業 担当	課題学習 各自	課題学習 各自	課題学習 各自
6時間目:13:50~ 担当教師						授業 担当	授業 担当	課題学習 各自		授業 担当	課題学習 各自	課題学習 各自



テストの方法:テスト問題を ZOOM で画面共有をし、テストを時間内にロイロノートに提出、その際常に ZOOM の画面をオンにしておく。その後採点をして、ロイロノートにてテストを返却。



2月

1月7日  
(木)  
～

○韓国全土およびソウル市防疫対策の一環としてすべての学校においてオンライン授業への転換の指示が出ているため、本校においても幼稚部・小学部・中学部すべての学部でオンライン授業を展開している。

授業の方法:ZOOM を活用し、各学年・クラスごとに配信。

提出物や配布物は、ロイロノートを使いデータにて配布と回収を行っている。

学年末ということもありテストもオンラインにて行う試みも行っている。

○学年末の授業参観・懇談会をオンラインで実施。

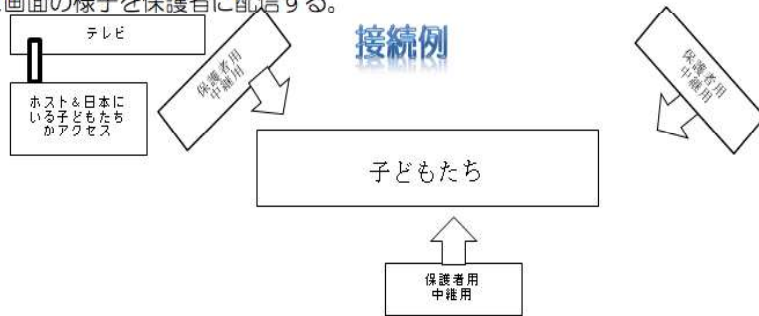
2月8日  
(月)～

1 学級懇談日程

	月 日	参観時間	懇談会
幼稚部	2月 8日(月) 年少 2月 9日(火) 年中 2月10日(水) 年長		11:10～11:40 オンライン
小学部	2月19日(金) 1年 2月17日(水) 2年 2月15日(月) 3年 2月19日(金) 4年 2月17日(水) 5年 2月15日(月) 6年	2月15日(月) 小3・小6 2月16日(火) 小2・小5 2月17日(水) 小1・小4  11:25～12:05 オンライン	1,2,3年 10:30～11:00 4,5,6年 13:00～13:30  オンライン
中学部	2月23日(火) 中1, 2	2月 日 10:25～11:15 (中2立志式) 2月 日 11:25～12:15(中1) オンライン	学級懇談会 9:20～10:10(中1) 13:00～13:50(中2) 学部懇談会 14:00～14:50(学部)  オンライン

参観にて中継する場合

- ① IPAD、または教室用パソコンにて各クラスのミーティングIDに接続する。(ホスト)日本にいる子どもたちも、アクセスしてもらい大型テレビに映し出す。子どもたちの画面が常にテレビに映し出されるようにピン止めをする。
- ② ①以外の端末を用意し、各クラスのミーティングIDでフリー参観用に、子どもたちの様子やテレビ画面の様子を保護者に配信する。

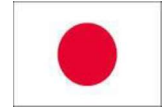


6. 具体的な取組内容（※詳細に記載し、付属資料があれば添付してください。）

小学部4年生の取組み



かがやけ未来へ 4年生!



ねらい 国際理解（他国の人々や文化に親しみ、関心を持つことができる）ことと同時に、自分たちの住んでいる地域についての良さを改めて感じる。

☆学習の流れ☆

子どもたちのはじめの思い

ニュースなどを見ていると・・・韓国と日本に、もっと仲良くなってほしいなあ！！

世界に韓国の良さを発信したいなあ・・・。

「韓国の人々は、とてもやさしいし、とても素敵なおとなのなあ」

私たちにできることはないかな！？

日本や世界の小学生に韓国の良さを伝えて、それをきっかけに色々な人に韓国の良さを  
知ってもらおう！

おうちの人や地域にもつ  
ながるかも！？

○日本や世界の小学校の子どもたちに良さを伝える！

☆交流する学校

- ・岐阜市立則武小学校
- ・シドニー日本人学校
- ・シンガポール日本人学校 クレメンティ校

- ① まずは、ソウル市について知ってもらおう！  
→ 実行委員を中心にグループ分けを行う。
- ② グループに分かれ、韓国の良さをインタビューしたり、調べたりしていく！  
→ 現地小学校の生徒にインタビュー  
→ 学校の先生にインタビュー  
→ 実際に自分で行って調べてみる  
→ 本やタブレットで調べる など
- ③ 調べたことをまとめ、発表の準備をする。  
ロイロノート  
など
- ④ ZOOM を活用しプレ発表会をして、内容をより改善していく！（学校内）





⑩ 学校の良さを発表(ZOOMを活用)(一人一台のタブレットを活用)

- ・グループごとに発表する。
- ・相手校の発表を聞く
- ・お互いに質問をしあう



## 中学部の取り組み

このコロナ禍の中、校外学習や交流会がすべて中止となってしまった。そこで、オンラインを活用し、少しでも子どもたちが、達成感や充実感を味わえるよう取組を行った。

### 1. 校外学習⇒交流学習

#### (1) 中1

昨年度: ソウル市内世界遺産(宗廟・昌徳宮)

今年度: オンラインによる熊本県宇土市立網田中学校2年生との交流学習

- ① 韓国の自然・歴史・文化等を調査し、網田中の生徒に紹介する。
- ② 熊本県や網田中学校の自然・歴史・文化・防災等を知ることで、その共通点や差異を見出す。



(2)中2

昨年度:ソウル市内博物館等を見学

今年度:オンラインによる長野県上田市立第二中学校2年生との交流学習(2回)

- ① 韓国の自然・歴史・文化等を調査し、第二中学校の生徒に紹介する。さらにソウル日本人学校についての紹介をし、自己理解を深める。
- ② 長野県や第二中学校の自然・歴史・文化等を知ること、その共通点や差異を見出す。
- ③ ロイロノートを使ってグループ学習を進めた。1人1台iPadを使って調べ学習をした。

2回目の交流についてはソウル日本人学校の生徒は自宅からの交流となってしまったが、ロイロノートで作った資料を使って発表ができた。画面共有をしながら行ったので、分かりやすい発表となった。



(3)中3

昨年度:慶州・釜山への修学旅行

今年度:オンラインによる釜山日本人学校中学部との交流学習

- ① ソウルの自然・歴史・文化等を調査し、釜山日本人学校の生徒に紹介する。
- ② 釜山の自然・歴史・文化等やプサン日本人学校の様子を知ること、その共通点や差異を見出す。



2. 善一中との交流



昨年度:(1)本校での交流会・・・レクリエーション、善一中よりダンス披露、ソウル太鼓披露

(2)善一中での交流・・・善一中の文化祭鑑賞

(3)善一中との一日交換体験

今年度:オンラインを使った交流・・・学校紹介、Q&A コーナー等



### 3. ドワイトスクールとの交流

昨年度:中1は相手校へ行き交流、中2・3は本校でゲーム ⇒中止(臨時休校のため)

今年度:オンラインによる交流を計画。令和3年3月2日で検討中。

### 4. 国際理解学習と小学部との交流

①国際理解学習として公益財団法人アジア人口・開発協会によるフードロスについての話をオンラインで聞いた。

②フードロスの話を聞いて、自分たちにできることを考える。

・1人1台 i Pad とイヤフォンを準備し、オンラインで交流をした。コロナ禍であるため、大人数での直接的な交流を避けるためにこうして ICT を活用した。

・ZOOM のブレイクアウトルームを使い、小学6年生と中学2年生混合の4人グループを作り、話し合いをした。グループで考えたアクションプランを代表者が発表し、それを他の全員が聞いた。



### 5. 中2職場体験学習

昨年度:JAL、NHK、読売新聞、大使館、ANA、Maluni hair

今年度:オンラインを使った職場体験を実施

①各職場について調べ学習をする。

各自でインターネット等を使って調べ学習をし、ロイロノートを使って情報共有をした。

②各グループに分かれて、司会進行の準備。

オンライン授業でも ZOOM のブレイクアウトルームを活用してグループ活動をした。グループ内ではロイロノートの資料を見ながら話し合いができた。

③ オンラインによる職場体験(JAL、NHK、ANA、大使館、ライオンコリア、読売新聞)

ZOOM を使用し、生徒は各家庭から参加した。



## 7. 取組の成果

(※どのような課題をどのように解決したかや、生徒・児童への効果等について詳細に記載し、成果物があれば添付してください。また成果がどのような観点で他の学校の参考になるかも記載してください。)

今年度コロナウイルス感染拡散防止のため、ソウル市内のすべての学校(ソウル日本人学校も含む)は登校することがなかなかできなかった。

4月・・・前半休校、後半全面オンライン授業

5月・・・すべてオンライン授業

6月・・・オンライン授業と分散登校の併用(小学部学級ごとの隔日登校)

7月・・・前半分散登校とオンライン授業の併用、後半より通常登校

8月・・・通常登校

9月・・・前半通常登校、後半分散登校とオンライン授業の併用

10月・・・前半分散登校とオンライン授業の併用、後半全員登校(短縮日課)

11月・・・通常登校(短縮日課)

12月・・・前半通常登校(短縮日課)、後半オンライン授業

1月・・・すべてオンライン授業

2月・・・分散登校とオンライン授業の併用、後半通常登校(短縮日課)

3月・・・未定

上記のように今年度だけでも様々な登校携帯、オンライン授業と対面授業などの併用などですすめてきた。今まで当たり前できていたことができなくなり、授業はもちろん行事や校外学習においてもオンラインへ転換し、子どもたちの経験や達成感が味わえるようそれぞれの学部・学年で工夫して行ってきた。その中の1つの取り組みが「世界中の友だちと仲良し。さあ教室を飛び出そう。」の取り組みである。1年間この取り組みを行った結果、次のような子どもたちは振り返りをする事ができた。

## ◎今回の取り組みを通して(子どもたちの感想)

### 小学部

- ・シンガポールと韓国なんてとても離れているけれど、タブレット1つでつながれるんだなあと思いました。お互いに相手の国のことを知れるし、自分の国のことについてもよく知ることができました。
- ・交流会を通して、発表する自信や話す力がつきました。お互いの国や学校の違いがよく分かった。
- ・ZOOMを使った交流会がとてうまくできました。相手の国の発表を聞いて実際に行ってみたくになりました。
- ・交流会をすることで、相手が住んでいるところやその学校についてよくわかり、いろいろな知識が身につくと思いました。自分たちの発表を作るときでも、自分たちで調べるから今まで知らなかったことも知ることができると思いました。
- ・自分たちの住んでいる韓国や学校について新たな発見があり、もっと好きになり、もっと大切にしようと思いました。
- ・他の国とのつながり、コミュニケーションが取れたので世界につながるいい機会だと思った。このことを通して、もっと世界ともつながりたいと思った。

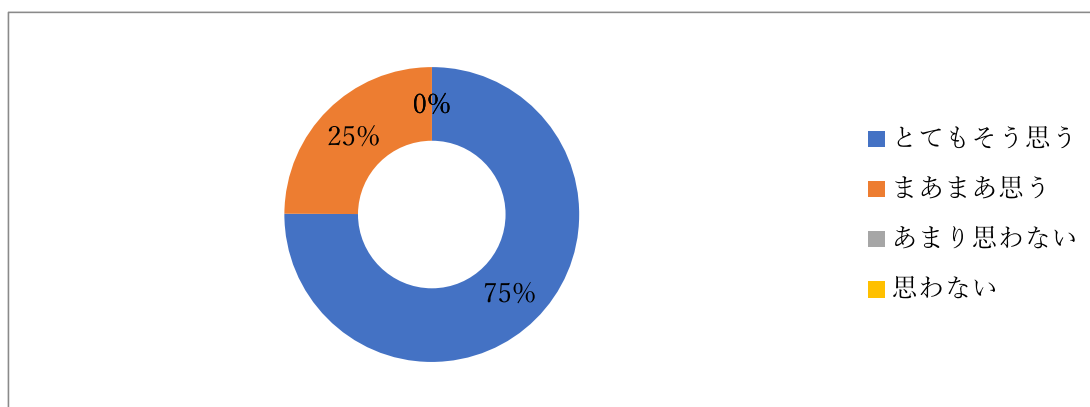
### 中学部

- ・相手の住んでいる場所や自分の住んでいる場所について詳しく知れてよかった。
- ・本来であったら直接会って交流するはずだったが今年はコロナの影響などもありできなかった。しかしオンラインでできてよかった。
- ・自分の知らないことをたくさん知れたし、自分の過ごしている学校や地域でもいろいろな発見が生まれてとてもよかったと思います。
- ・地域が違うと文化も違うということが分かった。相手の地域にあるいろいろなものを知ることができた。
- ・今まで知らなかった自分たちの住んでいる場所のことを知ることができた。
- ・私たちの学校は、いろいろな特色があること相手の学校にもいろいろな特色があることが分かった。

また、下記の項目で子どもたちに下記のようなアンケートを取った。(子どもたちの意識調査)

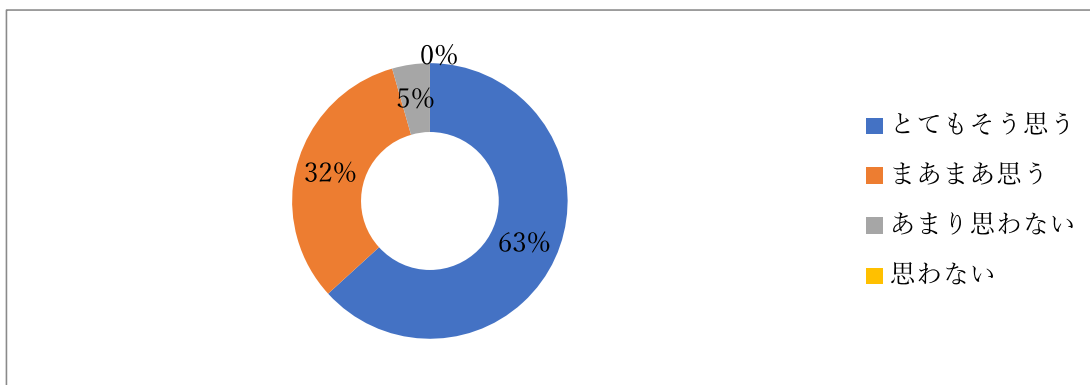
今回の学習を通して

- ① 相手の学校や地域の良さを感じることができた。

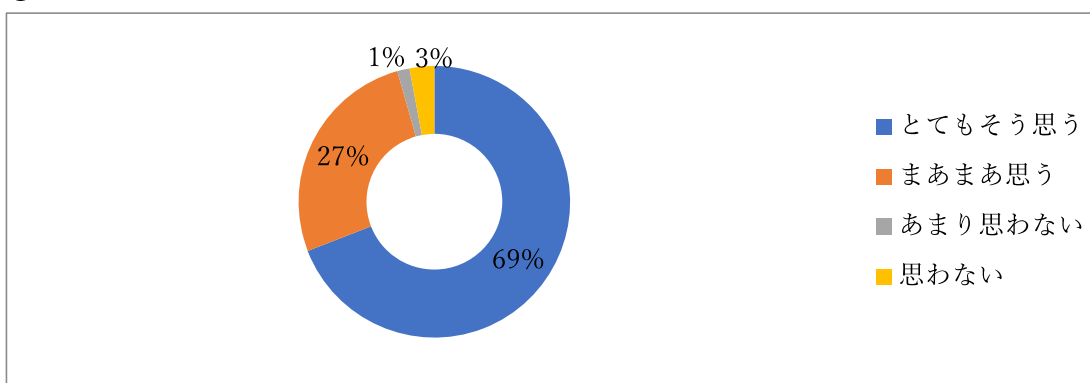




② 自分の住んでいる韓国や学校について新たな発見があった。



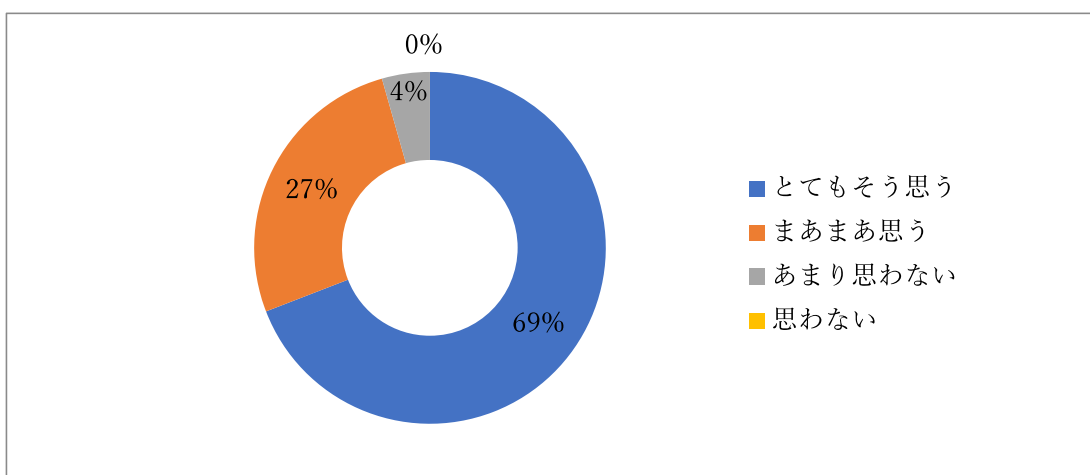
③ 自分の住んでいる韓国や学校について今までよりも好きになった。



上記の子どもたちの感想より、オンラインでも様々な交流や経験ができることが分かった。逆にオンラインだからこそできること、オンラインでしかできないことなど様々なオンラインの良さも見えてきた。また、アンケート結果からは「相手の学校や地域の良さを感じることができた。」「自分の住んでいる韓国や学校について新たな発見があった。」「自分の住んでいる韓国や学校について今までよりも好きになった。」に関しては、そう思うと答えた児童・生徒がほぼ100%という結果になった。この結果から、本校が例年行っていた現地理解学習のねらいが十分に達成できたと考えられる。コロナ渦の中でも、オンラインを活用すれば、ねらいを達成することが改めて実感することができた。

また別の視点で、下記のようなアンケートも取った。

① 今回の学習を通して、パソコンやロイロノートなど視聴覚機器の活用ができるようになった。



上記のように、整備事業で、校内 LAN・無線 LAN の整備・タブレット PC の導入など、環境が整ったことで子どもたち一人ひとりが、主体的に取り組む機会を以前より多く確保することができた。そのため、視聴覚機器の使い方など身につけることができたのだと考えられる。

今回、交流以外にも様々なことをオンラインで行ってきた。成果としては下記のことが挙げられる。

### ○成果(良かった点)

- ・ZOOMのように相互で交流できることによって子どもたちの様子を見とることができる。
- ・子どもと教師のみならず、子どもたち同士でも交流することができる。そのため、急に学校が休校になったことや外出禁止などからくる子どもたちの不安やストレスを軽減することができる。
- ・子どもたちが、規則正しい生活を送れるようになった。
- ・学習が、少しずつではあるが定着することができている。学習指導要領に沿って学習を進めることができる。
- ・ICT機器の活用を、教師はもちろん子どもたちもすることができた。
- ・ロイロノートを使うことで、手紙や課題の配布、回収ができた。今後も活用できそうである。
- ・画面共有することで、細かいところまで子どもたちに見せることができる。ホワイトボードを拡大したり、図工や家庭科など手元を拡大して見せたり、子どもたちに見せたいところをクローズアップすることができる。
- ・グループ活動や対話を重要な時に、ブレイクアウト(グループセッション)を活用することができる。現在、防疫対策の一環でグループ活動が思うようにできないがオンラインでは大いにすることができる。
- ・授業内容によっては、大人数を一斉に指導することができる。(しかし一方で、見切れない場合があり、少人数のほうが有効的なことが多い。)
- ・始業式や終業式、集会など大勢で集まるのが難しい場合でもオンラインを活用すればできる。
- ・フリー参観や懇談会など、校外行事に関してもオンラインを活用すればできる。(オンラインフリー参観は、複数カメラで教室の様子を発信し、保護者が自分の子どもやクラス全体の様子などが分かるようにした。)
- ・オンライン授業は、様々な方法でできるとわかった。
  - \*教科書をスキャンして教科書を映しながら行う。
  - \*パワーポイントにて、授業の流れを作成しておき授業を行う。
  - \*タブレットのノートアプリを画面に映して、ノートを取りながら行う。
  - \*デジタル教科書を活用する。
  - \*ZOOM機能のホワイトボードやブレイクアウトセッション、質問機能などを活用する。など、先生たち一人ひとりが自分のやりやすい方法や単元によってより子どもたちに伝わりやすい方法で行うことができた。
- ・オンラインだからできる授業が展開できる。
  - \*日本の学校とつなぐ。
  - \*外部講師を依頼することができる。
  - \*普段授業では行えない場所で授業を行うことができる。
- ・一人ひとりの様子を画面を通してじっくり見ることができる。
- ・録画を通して、子どもたちが何度でも学ぶことができる。
- ・教師側が複数の端末を使うと有効的であることが分かった。
  - \*子供と同じ画面を映しておくもの
  - \*子ども全員の様子が見えるもの など
- ・教員自身が自宅からでも、パソコンインターネット環境があれば授業を行うことができる。
- ・ロイロノートを活用すれば宿題や課題を毎日出すことや回収をすることができる。
  - 一覧で見ることができるので管理がとてもしやすい。
- ・ICT機器を使用することで自ら進んで、取り組む姿勢がよくみられた。



以上のように、今回の整備事業を通してオンラインの強みを大いに生かすことができた。今後も、今年の経験を活かし、さらによりよい教育活動が行えるよう研究を進めていきたい。

## 8. 今後の課題・展望

(※次年度以降への継続性及び発展性に言及してください。)

### 今回の交流を通しての課題

- ・校内 LAN、無線 LAN に関しては各教室の整備を行った。タブレット機器も多く導入されたこともあり、さらに特別教室や校庭でもスムーズに使えるよう校内の整備を進めていく必要があると感じた。また、今後増えた機器類の管理や維持についても検討していく必要がある。
- ・交流会や授業の際に、一人一台のタブレットで行った方がよい方法と全体で一つの画面で学習を進めていく方法のどちらともメリットとデメリットがある。より効果的な ICT の活用の仕方を研究していく必要がある。

### その他オンライン全般にかかわる課題

#### ○課題(赤字は、後期改善したもの)

##### 〈家庭〉

- ・機器の確保が難しい家庭がある。特に兄弟姉妹がいる場合は、同じ時間に授業がある場合、機器が複数台必要になってしまいます。また、各家庭によって使用している機器が違う。(スマホ、タブレット、パソコンなど)そのため、機器によって画面が見えづらい場合がある。  
→学校にタブレット機器を大量に導入し、タブレットの貸し出しを行った。
- ・幼稚部～小学部は、保護者のサポートが必須になってしまう。ミュートやカメラの使い方など子どもたちだけでは難しい場面が多くあるため、授業の時間は保護者も一緒に参加しなくてはならない現状がある。(両親が共働きしている家庭にとって厳しい。)  
→幼稚部に関しては、まだ難しいところはあるが小学校低学年の子どもたちは機器にも慣れ一人でも参加できるようになってきた。授業の決まりややり方も行っていくうちに習得できた。
- ・各家庭の WIFI やインターネット環境によって、音がずれてしまったり画面がフリーズしてしまったりすることがある。
- ・ZOOM やロイロノートの使い方を、子どもはもちろんだが親も覚えないと配布物や提出物などの管理が難しい。  
→保護者の方も使い方にだいぶ慣れ、手紙配布や連絡のやり取りなどロイロノートが活用がよりできるようになってきた。
- ・兄弟姉妹や機器の関係で、学校のように1時間目から授業を行うことができないため、授業がとびとびの時間になってしまう。  
→学校にタブレット機器を大量に導入し、タブレットの貸し出しを行った。
- ・プリンターがない家庭は、印刷ができないため課題ができないことがある。  
→ロイロノート上で記入することはできるように工夫したが、やはり鉛筆と違い字の止めやはね、はらいなど細かいところまで行うことは難しい。中学部や大人ならタブレット上で記入でもよいが、小学部などに関して難しい場面も多くあったので今後も検討していく。
- ・子どもたちの生活が乱れてしまう。  
→中学部は、朝の会の時間を毎日確保

##### 〈学校〉

- ・インターネット環境があまりよくない。(特に WIFI)各クラスで同時に配信する場合、画面がフリーズしてしまったり、声がとぎれとぎれになってしまったり、最悪インターネットが切れてしまうことがある。現時点では、応急的な対応としてモバイル WIFI を導入して行っている。  
→4月当初学校のインターネットの不具合や回線の容量不足などが影響していたが、モバイルルーターなどを業者からレンタルをして対応してきた。しかし、モバイルルーターも日や時間によってつながりにくくなってしまった。文科省からの ICT 整備授業からの予算にて学校内 LAN や無線 LAN の整備を行った。整備を行ったことでオンライン授業がスムーズに行える環境が整った。しかし、幼稚部や特別教室などに至っては整備ができていないので今後も継続して整備していく必要がある。
- ・教材研究に非常に時間がかかる。いつも通りに授業が行えないために、どのように展開すればよいのか、どのような教材が有効的なのかを手探りで行っている。そのため、情報共有が必須だがコロナ感染防止のため時間の確保や話し合いの場を設けることが難しい。また、保護者もいろいろな学年の授業を見ることができると、先生方の授業を比較している現状もある。  
→教員研修や他の先生方の授業の録画などを活用し教材研究を行っていった。やはり、通常の授業以上に教材研究に時間がかかるのは事実である。今後もさらにどんな手法がより有効的なのかを研究していく必要がある。
- ・子どもたちが使用している機器が、それぞれ違うため視覚的に伝えようとしても、うまくいかなかったりする場合がある。(スマホで受講している子どもたちもいるため。)

→学校にタブレット機器を大量に導入し、タブレットの貸し出しを行った。

- ・ZOOM やロイロノートの操作を、まず教員がしっかり理解しないといけない。しかし、研修などの時間があまりとれていないため、各担任によって差がある現状がある。

→教員研修や他の先生方の授業の録画などを活用し教材研究を行っていった。やはり、通常の授業以上に教材研究に時間がかかるのは事実である。今後もさらにどんな手法がより有効的なのかを研究していく必要がある。

- ・新派遣教員が着任するまでは、ソウルにいる教員でオンラインを行っていた。着任以降は、日本にいる教員にもできるだけ参加して授業を行ってもらおう予定である。しかし、日本にいる教員は、教科書や指導書、インターネット環境が十分でない方が多い。その中で、どのくらい授業を行えるのかが未知数である。

- ・幼稚部～小学部に関しては、親のサポートが必須のため常に授業を見られていることになる。常に授業参観のため、心情面で苦しくなってくる。(協力的な保護者が多いが、授業中に茶々を入れてくる保護者も数名いるのが現実である。)

- ・授業に参加できなかった子どもたちのために、授業後、録画したものをロイロノートのアップしている。インターネットの状態にもよるが、かなり時間を要する場合もあるのでなかなか手間がかかる。

→文科省からの ICT 整備事業からの予算にて学校内 LAN や無線 LAN の整備を行った。整備を行ったことでオンライン授業がスムーズに行える環境が整った。しかし、幼稚部や特別教室などに至っては整備ができていないので今後も継続して整備していく必要がある。

- ・教材を渡していないので、授業展開で難しい場面が多く出てくる。また、教科によってオンラインでは難しい場合が出てくる。(例えば、理科の春探しや種の観察など定見を通して学んでいくことが前提なので、どのように授業を展開していくか工夫が必要になってくる。)

→数か月に1回というような形で教材配布の日を設けた。そのことによって教材や学校からの配布物を配ることができた。

- ・専科の先生にも授業を行ってもらっているが、担任が授業を開き、録画したものをロイロノートにアップしなくてはならないため、実質空き時間にならないことが多い。専科の時間も担任や担当が、ホストとして入っているので空き時間の確保が難しい。

→専科の先生方にも、ZOOM の使い方をはじめ、ロイロノートの使い方の研修を行った。専科の先生や講師の先生のスキルアップも進んできているが、スキルの習得に個人差があるので今後も研修が必要だと感じた。

- ・授業の展開の方法の検討が必要

小学部に関して現在一部を除いて学年で授業を行っている。

メリット

- ・学年を一斉に授業ができる。
- ・教師の負担が軽減される

デメリット

- ・一人ひとりを見とるのが難しい
- ・一つの画面に全員が映らない。
- ・担任が、一日子どもたちに会わない日が出てきてしまう。

→学年で行う場合は、TT で授業を行いグループセッションを行う。

→主要教科に関しては、クラスごとに授業を行う。

などの対策を考えていく必要がある

- ・専科の授業について

オンライン授業は、通常より授業時数が少なくなっている。専科の授業の時数を予定通り行ってしまうとほかの教科の授業(主要教科)の時数の確保が難しくなる。また、実技教科のオンライン授業の扱いをどうするか。

→オンライン授業の時数の見直しが必要

→オンライン授業中に実技教科の扱いや単元計画・指導方法などの見直し

## 9. 所感

このコロナでもICT機器を活用することで子どもたちの学びを保証できることが実感できた。さらにオンラインからできることもたくさんある。今後コロナが落ち着き通常授業に戻った際も、そのオンラインの強みを生かしていきたいと強く思った。

※提出いただいた報告書や成果物は、本事業の取組成果として公開する予定です。また、記載いただいた内容は文部科学省や海外子女教育振興財団のその他の資料にも使わせていただく可能性があります。

※記入欄は適宜拡張してください。